

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 名張市立南中学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
所在地 〒518-0421
三重県名張市つつじが丘南1番町241番地
E-mail g01_j-minami@nabari-mie.ed.jp
Website http://www.nabari-mie.ed.jp/j-minami
児童生徒数 男子 143名 女子 157名 合計 300名
児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

①国際理解

◎国際交流フェスタ

1. 目的:名張の観光地や文化についての特徴等を英語で説明する。
名張在住の外国人やALT等に名張の文化を説明し、英語を使って交流をする。
いろいろな国籍の外国人と交流することで、異文化交流を図る。

2. 日時:11月20日(日) 午後 (当日は1日授業)

3. 場所:つつじが丘市民センター

4. 参加者:南中学校3年生 96名、つつじが丘小学校6年生 111名 計207名

5. 対象者:名張在住の外国人、ALT、三重大留学生、地域の方々等

6. 内容

南中学校3年生とつつじが丘小学校6年生が一緒になり、28グループを作る。
1グループを6~8人とし、小中合同のグループとする。
2グループ毎に名張の文化を紹介する物を1つ選び、来場した外国人に発表をする。
つつじが丘市民センターに、14個のブースを設置する。
自分たちが調べてきたことをポスターにして貼り、来場者に説明をする。(英語を使用する。)
時間を半分に分けて、交代をする。
ポスターはパネル2つ(1つのサイズ 縦180cm 横120cm)に貼ることにする。

7. 時間設定

11:00頃 各ブース毎に準備を開始(各担当者)

12:20 昼食

12:45 開会式(司会:久保田) 多目的ホール

* 生徒は多目的ホールに集会隊形になって座る。

来賓等は呼ばないので、イスは用意しない。来場者は、生徒の周りにいてもらう。

・校長あいさつ(西山校長) 2分
・太鼓披露 20分
・能披露 10分
・趣旨説明(久保田) 3分

13:30 開始

14:20~14:30 前半・後半入れ替わり。

15:20 終了

15:30 閉会式(司会:久保田)

・校長あいさつ(雪岡校長)

終了後、ブース毎に後片付け。片付けが終わったブースから解散

8. 会場図 * 別紙 (○のついているところにブースをつくる。)

9. ブース

カテゴリー	テーマ	
①衣 (cloth)	ゆかた	忍者
②食 (food)	でっちゃんかん	かたやき
③住 (living)	和室	茶道
④文化 (culture)	アニメ	折り紙
⑤歴史 (history)	江戸川乱歩	恵比寿祭り
⑥名所 (sight seeing)	温泉	赤目四十八滝
⑦スポーツ (sports)	剣道	空手

10. 今後の予定

9月8日(木)

・ポスター作成。原稿作成

10月20日(木)

・ポスター完成。原稿完成

11月10日(木)

・リハーサル

11月20日(日)

・本番当日

11. 事前指導

○指導計画

～1学期～

第1次 グループ分けアンケート実施

第2次 グループ別討議(2時間)

～2学期～

第3次 グループ別活動(9月乗り入れ)

第4次 グループ別活動(10月乗り入れ)

第5次 発表(本番当日)

第1次 小学校(6月 24日) 中学校(6月 24日)

	学習内容	指導上の留意点
導入	11月の国際交流イベントの紹介。	* 本指導案を基に話をする。
展開	発表したいカテゴリーを第③希望まで記入する。出来れば、具体的に書かせたい。	* パンフレットを使うことで、もっと名張の事を知ってもらおう。 * 具体例はあくまで仮の話なので、具体案があれば、それも一緒に書いてもらおう。 * 名張だけではなく、日本文化であれば OK。(折り紙とか……)
まとめ	自身が紹介したい日本文化を決定する。	

第2次 小学校・中学校(7月1日 午後 乗り入れ授業) * 2時間

	学習内容	指導上の留意点
導 入 (10)	グループ分け発表(体育館)	
展 開 (40)	①グループに分かれて各教室に移動する。 ②各教室で小グループを編成して、それぞれが何を発表するのかを決定する。 (事項書に従って、自己紹介を行い、小中共に、リーダーを決定する。中学リーダーが小グループリーダーを兼ねる)	ポスターを書くことは必須。(英語) 画用紙2, 3枚? クラス毎に何種類かのテーマをピックアップしておき、小グループに選ばせる。
* 休憩 をはさむ (30 ~ 40)	休憩 ③発表するテーマに基づいて、何が出来るかを考える。	ポスターを書く(ポスターの内容も)、実演をする、インタビュー内容を考える。 役割分担をする。
ま と め (5)	夏休みの宿題として A4 1枚のレポートを課す。	

第3次 小学校・中学校(9月8日、10月20日、11月10日 午後 乗り入れ授業)

○各グループで発表に向けた取組を行う。

◎海外の学校との交流授業

1) 題材『オーストラリアの子どもたちと交流しよう』

2) 目標

- I C T 機器を使って、オーストラリアの子どもたちと積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。
- 英語や非言語を使って、表現方法を工夫しながら自分の思いを伝えたり、想像力を働かせながら相手の伝えたいことを感じ取ったりすることができる。
- お互いの国について紹介し合う中で、違いに気づくことができる。

3) 指導計画 (全8時間)

- 1 オリエンテーション (1時間)
- 2 プレゼンテーションの方法を考える (1時間)
- 3 スマートボード、スカイプ、iPadの使い方を知る (1時間)
- 4 プレゼンテーションの準備・練習をする (3時間)
- 5 オーストラリアの子どもたちとの交流 (1時間)
- 6 交流の振り返り (1時間)

4) オーストラリアの子どもたちとの交流時の目標

- スカイプを通して、オーストラリアの子どもたちとのコミュニケーションを図ることができる。
- 英語や非言語を使って、表現方法を工夫しながら自分の思いを伝えたり、想像

力を働かせながら相手の伝えたいことを感じ取ったりすることができる。

●日本とオーストラリアとの違いに気づくことができる。

6) 生徒の感想より

○交流の感想

・オーストラリアの子が思ったより日本語ができていたので、すごくびっくりした

- ・オーストラリアの子達はのりが良くて話しやすかった
- ・フリートークで、会話が止まったら大変なことになるからやりたくないと思っていたけど、今はもう一回やりたいと思っている。機会があればやって欲しい
- ・緊張して上手く言えないと思っていたけど、すらすら言えた
- ・オーストラリアのクイズで知らなかったことが知れて良かった
- ・オーストラリアの発表は英語の後に日本語を言ってくれたので、わかりやすかった

- ・PPAPのコラボが楽しかった
- ・相手の英語は発音が良すぎてあまりわからなかった
- ・自分達の発表の時に、相手がリアクションしてくれてうれしかった
- ・英語がちゃんと通じてよかった。両方共の子がすごく楽しそうでもよかった
- ・交流すると知らない間に友情ができることを感じた
- ・みんなで同じ事をして通じ合えたような気がした
- ・英語ができなくても、ジェスチャーや言い方で伝わるんだなと思った

○また交流したいですか？

- ・こういう機会はなかなかないのでまたしたい
- ・交流を続けて、どんどん仲良くなって、いつかは実際に現地に行って交流してみたい

- ・他国の人と話し合う機会がないし、貴重な経験だからまたしたい
- ・楽しかったからまたしたい
- ・英語の勉強の他にコミュニケーションの勉強にもなると思ったし、本場の英語の発音に触れることのできる機会だから
- ・すごく楽しかったし、相手が優しかったから
- ・いろんな英語の使い方や、自分達の英語がどのくらい伝わるかわかるから
- ・もっと互いのことを発表して知りたいと思った
- ・他の国の人とも話してみたい
- ・自分の為になると思う
- ・同じ話題を海を越えて話しているのがとてもおもしろい
- ・違う国に住んでいる子達と話をしたりするのは楽しいとわかったから
- ・日本人以外と交流する機会がないから
- ・海外について興味を持てるから
- ・英語が苦手だから、もっと英語に関わることがしたいから
- ・ある程度練習できて準備万全の時にしたい

②平和・人権

○校内ヒューマンライツ

「校内ヒューマンライツ」とは、人権を大切に考える仲間が学年の枠をこえて校内の人権学習やいじめの問題・さまざまな人権問題・日頃の悩みなどについて

語り合う“しゃべり場”です。生徒自身の思いや考えをお互いに出し合い・共感し・気づきあう中で、縛られていた自分自身を解放していくことを目的としています。

1) 学年別・全学年対象の人権集会について

	1 年生 (西口先生)	2 年生 (山崎先生)	3 年生 (福田先生)
1 学期	な か ま 集 会		
	6月16日(木) 5・6限 ●どんな学年になりたいか。	?月?日(?) ?・?限	7月5日(火) 3・4限 ●修学旅行へ行ってみて感じたこと。 ●自分たちの身の回りの平和について考えたこと。
夏休み	「比奈知フィールドワーク」研修 ●詳しい日程や内容等は後日提案します。		
	な か ま 集 会		
2 学期	12月ごろ ●中身は未定。	12月ごろ ●中身は未定。	12月ごろ ●中身は未定。
	ヒューマンタイム(新) 終業式ごろ ●中身は未定。	ふれあいタイム 終業式ごろ ●中身は未定。	ヒューマンタイム(新) 終業式ごろ ●中身は未定。
3 学期	な か ま 集 会		
	3月ごろ ●中身は未定。	3月ごろ ●中身は未定。	2月下旬 ●中身は未定。
	ふれあいタイム 終業式ごろ ●中身は未定。	ヒューマンタイム(新) 終業式ごろ ●中身は未定。	●卒業

【注意事項】

- (1) 「なかま集会」については、各学年で各学期に1回行います。ヒューマンライツ実行委員のみなさんには、企画・運営・当日の司会等、中心となって動きます。指示については、各学年担当の先生から行います。
- (2) 「ふれあいタイム」については、年間1回学期の終わりに各学年で発表します。
3年生は1学期、2年生は2学期。1年生は1学期に全校生徒に発信します。指示については、各学年担当の先生から行います。
- (3) 「ヒューマンタイム」については、ふれあいタイム終了後、5分～10分間の中で、ふれあいタイム発表学年以外の学年のヒューマンライツ実行委員で全校生徒に発信します。

2) 今後のヒューマンライツ実行委員の動き

【1・2年ヒューマンライツ実行委員】

- 6月24日(金) 昼休み 「ヒューマンタイム」で何を発信するか意見交流・再度宿題
- 6月27日(月) 昼休み 「ヒューマンタイム」で何を発信するか再検討
- 6月28日(火) 昼休み 「ヒューマンタイム」で何を発信するか、方向性の決定
- 6月30日(木) 昼休み 各役割分担や担当の決定
- 7月1日(金)～7月7日(木) 原稿係、原稿チェック(西口・山崎)・仕上げ完成
- 7月11日(月)～7月15日(金) 発表練習
※ あくまで予定ですので、変更する可能性があります。
- 「なかま集会」については野口先生、「ふれあいタイム」については福田先生から、後日、集まりやとりくみの連絡があります。

【名張市ヒューマンライツ】

【日時】11月25日(金) 14:00～

【場所】教育センター

【参加者】

【生徒実行委員会の日程と場所】

- 第1回 7月7日(木) 16:00～ 教育センター
- 第2回 9月1日(木) 14:00～ 教育センター
- 第3回 10月3日(月) 16:00～ 教育センター
- 第4回 10月21日(金) 16:00～ 武道交流館いきいき
- 第5回 11月14日(月) 16:00～ 教育センター

3) 夏季研修会

1. 日時 8月24日(水) 10時30分～14時

2. 目的

(1) 夏休みの時間を利用して、様々な人権問題等について語り合い、気づきあう。

(2) ヒューマンライツメンバー(人権を大切に考える仲間)の、縦や横のつながりを深める。

3. 内容 人権総合学習

4. 場所 比奈知文化センター(TEL:68-5073)

5. 日程

10:30 比奈知文化センター現地集合

10:45～11:45 人権学習(1)

11:45～13:00 昼食(そうめん)

13:00～14:00 人権学習(2)

14:00 比奈知文化センター現地解散

ヒューマンライツ夏季研修会 生徒の感想より

1 比奈知文化センターについて学んだこと

- ①比奈知文化センターは1972年に建てられた。
幼稚園や保育所の子供たちからおじいさん、おばあさんまで利用している。
部落差別をはじめとして色々な差別について考えるためにつくられた。
いろいろな考えを交流している。
- ②1972年に建てられた。いじめ(すべて)をなくすためにつくられた。ひばりっ子が放課後に勉強する。保育園児からお年寄りまで幅広い範囲の人たちに利用されている。
識字教室とは何なのか。奪われてきたものを取り戻し、それを発信していく必要性。
「ひばりん」というゆるきゃらがいる。
「解放子ども会」とは何なのか。部落差別からの解放を求めていく。
- ③比奈知文化センターで学んだことは、色々なつくったものは「ひばりっ子」という名前がついていて、小さい子から大きい人まで参加できて、とても幅広くに知らせているのがすごいところです。あととてもすごいと思ったのが、昔話で採用されているものが飾ってあったのでびっくりしました。
- ④創立1972年→部落差別をなくす目的で設立。
識字教室→昼の部・夜の部に分かれている。
図書室→比奈知小の児童が学童の形で勉強。
会議室→子守ぎつね
- ⑤部落差別などあらゆる差別をなくすため44年前に建てられた。
「ひばりっ子」と呼ばれる小学生・中学生などの子どもたちが活動している。
標識や看板などもつくっている。
- ⑥いろいろな差別をなくすために、44年前比奈知文化センターが建てられた。

- ⑦識字…色々な理由で学校へ行けなかった人が、奪われたものを取り戻す教室。勉強や字など。
 解放子ども会…部落差別をなくすための運動。こども会。
 水平社宣言の横にあったマークは何？
 昔話、実話、きつねの話。
- ⑧1972年に建てられた。建てられた初期の目的は、「あらゆる部落差別の撤廃」や「字mm件について学び合う」といったことであった。今では識字教室などを開いたり、ひばりっ子の会を設立し、あらゆる人権問題について意見を交換し合っている。
- ⑨識字教室ってなんだろうと思った。水平社のマークってどんなことを意味しているのですか？
 部落差別解放、差別をなくすための学習会…解放子ども会
 いろんな理由によって教育を受けられなかった人が学べる（取り戻す）教室。
- ⑩1972年に建てられた。幼稚園の子供から大人までの幅広い人たちが利用している。その子どもたちをひばりっ子という。つつじ小でいう学童のような活動もこの文化センターで行われており、小さな和室のような部屋で勉強をする。解放子ども会は、差別をなくすための会、部落差別をなくしていこう。
 識字教室の「識字」とは？→教育を受ける権利を奪われた人たちがそれを取り戻す。ここでは差別に対して何ができるかを考えている。

2 フィールドワークを通して学んだこと

- ①円明寺はもともと今ある道路の上にあった。しかし道を通すために坂の上を移動した。
 円明寺の隣にいこいの場があった。
 「子守きつね」という話に出てくる赤ちゃんは比奈知に住んでいたそう。
- ②道を通すために「円明寺」と民家が移動。そのとき、円明寺は「いこいの家」という建物と一緒に移動した。
 「子守きつね」の話は本当にあった話らしく、話に出てきた赤ちゃんはその家のひいおじいちゃんにあたるらしい。円明寺の前に「安ようざん」がつく。
- ③円明寺に行くとき、円明寺の元あった場所に驚きました。なぜなら元あった場所が今は道路になっていたからです。そしてその円明寺をどうやって移動したのかがすごいところです。そして円明寺の近くにあった看板に、比奈知文化センターの2階で見た「子守きつね」の昔話があって、そのまんま書いてあって、その子どもが近くの子孫でとてもびっくりしました。
- ④円明寺→1度取り壊された→道をつくるために（公園・いこいの家など）
 →比奈知文化センターが創立されるまで交流の場だった。
 円明寺の近く→「子守ぎつね」のとき赤ん坊で登場したおじいちゃんの近くにある「子守ぎつね」の看板（物語）
- ⑤円明寺が住民たちの意思で動かされたのがびっくりした。
 いこいの場を移動したのに、坂が急で人がそこまで行きづらいのが残念だと思った。
- ⑥円明寺が移動した。
 円明寺に行くまでの標識を“ひばりっ子”がつくっていたことがびっくりした。
 “子守ぎつね”の話で出てきた赤ちゃんが、円明寺の近くに住んでいることを聞き、びっくりした。

- ⑦円明寺のこと
- ⑧道を通すために、寺や家を人の手によって移動させていた。周辺地域にある標識や比奈知文化センターの看板などを、机の天板や木材をうまく活用し、ひばりっ子の中学生の人々がつくっていることを知ることができた。安養山とはいったい何なのか？「安養山円明寺」と呼ばれている？
- ⑨円明寺は地域の人々の声で道を通すためにどけられたことが分かった。円明寺の横にあるいこいの場は、坂の上にあるので行くのが嫌だといると聞いて、坂の下につくれないのかなと思った。昔話のきつねが優しいと思った。
- ⑩円明寺は道路を通すために、坂の上にも移動させられた。隣には地域の人々が集まる小さな建物があるが、昔はお寺にみんなが集まっていた。道の途中には机の天板を使った看板などがあつた。またお寺の前には施設の掲示物にもあつた子守きつねの話が描かれた看板もあり、地域に伝わる昔話にも触れることができた。

3 菅尾さんの話を聴いて学んだこと

- ①社会にはたくさんの差別があり、成長するたびに気づいてくる。おかしいと思えることがたくさんある。そのとき自分はどうか考えるのか、どうするのかを考える。気づくことが大切だ。差別は人格でも個性もその人に何も責任はないはずなのに、差別するのか。差別はなくなるまで忘れてはならない。平和な社会がみんなの望む社会である。そんな社会をつくっていけるように。
- ②LGBTの話をしていただいて、LGBTとは同性同士なのに好きになってしまふというものでした。自分を受け入れ、できることはないか考える。「私を認めて」。
部落差別は本当は同じ人間なのに、出身地でよしあしを決める「矛盾」「不合理」「理不尽」な差別。その原因は「周りの人」。矛盾だらけの世の中。「おかしい」と思うことが大切。水平社が創立して94年。現状は変わらず。一緒に頑張っていこう。
- ③学んだことは「LGBT」という男が男を好きになるなどのことを教わりました。それはどこへ行って知ったかという、京都の比奈知文化センターみたいなところで知ったという。他にも在日の人や部落差別のことを学んだ。詳しくLGBTのことを書くと、なぜ受け入れてくれないのかが差別という。あと、部落差別をくわしくすると、なぜ地域に生まれただけなのに言われるのかという差別。比奈知文化センターはそういう差別をなくすという運動をしている。
- ④部落問題→なぜ起こるのか→人の勘違い（みんなが関係している）
→おかしい言動に表れている。
そのため、24年目にもなる比奈知文化センターが誕生した。
水平社94年目→差別などから立ち上がって、差別、いじめなどはダメと言える世の中になってほしいと今も活動している。
- ⑤「部落差別が外国では通じない」と聞いたとき、日本の土地感がなくて、その人がどこ出身か分からないから通じないと思ったけど、外国には部落差別自体がないのには驚いた。1人ひとりを見る力は、その点で思えば日本は劣っている？
障がいをもっているLGBT、ハーフ、そういった問題は大丈夫といった彼女が、「部落差別」の問題になると考え込むのは「お父さんが」と言ってもやっぱり自分の本心なんじゃないかと思う。

- ⑤話を聴いて学んだことは“LGBT”ということばに疑問を持った。“LGBT”の意味、L（レズ）は女性が女性を好きになること、G（ゲイ）は男性が男性を好きになること、B（バイ）は男性も女性も好きになること、T（トランス）は生まれた姿は男だけど心は女ということを知った。LGBTの人は差別を受けたりいろんな差別があるけど、世界の人が手をつないで考えるもの。でも部落差別は日本人の足元にあることが分かった。「いろんな差別がなくなるまで差別ということ絶対を忘れてはいけない」ということを大切にしていきたいと思いました。
- ⑥「LGBT」レズ・ゲイ・バイ・トランス→性同一性障がい…言わずにずっと向き合ってきた。
部落差別→同じなのに違うくさせたい→矛盾。日本だけの差別、外国にはないもの。なぜなのか？
おかしいと気づけること→（大切）→どうしたらいいか考える。
- ⑧この社会の中には様々な差別が広がっている。差別に気付く。交流した人々の中には親が部落出身の方やLGBTの方もいた。今ではLGBTに対する考え方もあり、うまく生活できるようになった。けど社会からまだ差別は消えていない。親が部落出身であっても、子は差別される。「誰が部落差別出身＝みんな違うようにしたいのか？」→周りの人々…部落差別＝足元にある差別（日本だけ）矛盾だらけ。私たちも気づいていないだけで、どこかで関わっている。
- ⑨部落差別をされている人は、私たちと同じ何も変わらない人間なのに差別されるのは本当におかしいことだと思った。海外ではこの差別はなくて、この差別のことを教えても「なんでそんな差別があるのか意味が分からない」と言われるそうです。私もなんでそんな差別があるのか分かりません。周りの人の考え方を変えていく必要があると思いました。
- ⑩成長するほど多くの差別に気付く。仏教大学「LGBTで差別されてきた人」中学から違和感があり、高校へ行っても同じ。担任の先生にいうとすっきりした。→家族にも話した。性も多種多様ということを理解しようとする運動もある。
「お父さんが部落出身」お母さんに言わんときやと言われて黙ってきた。家族が部落というだけでその人も考えられてしまう→理不尽
なぜ違おうとするのか、分けようとするのか。本当の原因は周り、部落差別は日本だけ。足元の差別。気づいていないだけで多くの差別と接している。94年前からいまだに変わっていない。過去の人たちがつくってくれた社会。みんなが幸せと思える社会を目指す。

4 グループでの話し合いを通して学んだこと

- ①先輩方の意見や自分の考えから「最初から人権について考えるよりも、いじめや差別はやってはいけない。」ということを理解し、それから「差別やいじめをされて苦しんでいる人々の気持ちを考え、自分たちはどうすればいいのだろうか」と考えるということが、心に残しておきたいことだと思いました。
- ②やっぱりみんなが「これはおかしいんじゃないか」と思うことから、いじめや差別をなくす運動が始まっていくと思うので、そう思うことを大切にしていきたいです。また、海外では、「部落差別」というものがないと聞きました。やっているのは日本だけだということでした。それはとても恥ずかしいことです。無意味な差別をするなんて、間違っていることです。海外ではないのだから日

本もなくせるはずです。無くす努力をしていきたいです。

- ③みんなそれぞれの意見を出していて、一番多かった意見はやっぱり「部落差別とかをなくしたい」というのが多くて、その意見を持っている人はやっぱりみんな同じだと思いました。
- ④差別やいじめ、部落問題が自分たちにも大きく関係をしてしまっていること。なので自分たちにもそういった問題を1人ひとりが考えて行動したらよい。部落差別の人は、部落差別をしていた人たちのせいで今も識字教室などで勉強していたので、人の格差は相手の未来もとってしまうことに気付いた。
- ⑤3年生は1つしか違わないのに私よりすっごいしっかり考えていた。無知は罪にはならないけど、よく知らないうちに広めると、直接ではないにしろ、いじめや差別の引き金になると思う。
- ⑥差別というのは、人の人生を奪うというのが改めてより分かった。
- ⑦差別は人生を奪うこと。
- ⑧全員がそれぞれ違う意見を持っていて自分が持っている考えや疑問は声に出して仲間に話さない伝わらないし、心には届かないことが分かった。菅尾さんも自分の人権に関する考えを、真剣に分かりやすく話してくれたので、見習って自分たちも自分の考えは言葉にして伝えていこうと思いました。
- ⑨私は差別はなくそうと言ってきましたが、どんなことをすればなくなるのかを考えました。おかしいと気づけることも大切だと思い、それを正すよう行動したいです。私たちはLGBTということばを初めて聞いて、この差別をなくすために伝えても、そのことをからかう人がいると思うので、伝え方にも気をつけたいと思いました。
- ⑩グループの話し合いで、自分が差別する側にならない、みんな平等である、差別は人の人生を奪うと分かったなど、多くの意見が出ました。私はお話を伺ったこともふまえて、過去の人た達がつくってくれた平和を目指す社会を、自分たちが守っていかなければならないと思います。学校生活の中でも、どのような人にも平等に接することができる人でありたいし、差別をする側にならないようにしたいです。

5 全体を通しての感想・来年度やってみたいこと

- ①人権について真剣に、また楽しく学べました。先輩方との交流もでき、とてもよい時間でした。グループでの話し合いの時に、自分の考えはいくつか浮かんでいましたが、なかなか発表できませんでした。これからの課題としては、周りの雰囲気をもっと暖かく話しやすくすることと私自身ももっと勇気を出すことだと思います。
来年度は比奈知文化センターだけでなく、色々な場所で人権について学んでみたいです。ヒューマンライツのメンバーで昼食を調理するのがとても楽しかったので、来年もやってみたいです。
- ②「みんなちがってみんないい」その言葉通り人の良さを見つけ、ほめあって生きていけば差別なんてものは生まれてなかったはず。人の間違いを否定し、離れていき、差別する。そんなことがあっていいのでしょうか。私はそうは思いません。人の良さを見つけながら生きていけばよいと思います。どうかみんながそんな生き方をしてくれますように。
「流しそば」やってみたいです。
- ③感想は、まず菅尾さんの話を聞いたことです。なぜならとてもみんなの問題を

深く話してくれて、僕はそこで共感できたりして、とてもよいことを話してくれて自分も考えることができ良かったです。そして僕は部落差別やいろいろな差別をなくしたいと、前よりもさらに思いました。また、こんな授業ができたらいいなと思いました。

来年度やってみたいことは、また違う人権学習の所に行きたいです。なぜならそこでまた新たな人権について知ることができるからです。

- ④ 来年はそうめん作りの時間をもっと短縮できたればいいなと思った。なぜなら比奈知文化センターでの話の時間が短くなるからです。それにもなって比奈知文化センターでやってみたいことの中で、会議室にあった「小守きつね」について勉強を重ねてみたいなと思いました。今回の比奈知文化センターでは多くのことを学びました。例えば部落問題の人たちの気持ち、LGBTの人たちの気持ち。そういった人たちの気持ちが分かったので、これからもっと人の気持ちを考え、集会などの場で発表できたらと思いました。

- ⑤ 軽い気持ちで「知りたい」と思ってそのままに行動すると、無意識にも差別を広める原因になることが分かった。

私も初耳だった「LGBT」という問題について、そのことに本気で悩んでいる人がいるのに、遊び半分で言うことはあってはいけないと思う。なので「LGBT」を学年でも学校でも話すときは、苦しんでいる人がいるということを伝えなければいけないと思う。

来年度はフィールドワークを少し増やしてほしいです。

- ⑥ A班とB班で分かれて話したとき、同じ班のいろんな意見が聞けた。3年生の意味はとても詳しくかけていて、すごいと思った。

- ⑦ このような交流をもっと増やして行って、つながりとか人権のことをじっくり考えられる時間をとったらいんじゃないかと思いました。

- ⑧ はじめてヒューマンライツとしてメンバーのみんなで校外での活動ができて、普段話したことのない下級生の子とじっくり話すことができ、プラス、普段仲がいい子ともさらに仲を深められた。だからこの交流ができて、本当によかったと思う。来年度は私は卒業して南中学校の生徒ではなくなってしまうけど、この先、ヒューマンライツが続けて存在し続けるのであれば、今回みたいにメンバー同士の仲や絆が深められるイベントは続けて行ってほしいと思いました。

- ⑨ 私たちはどんな差別があるのかを子供の時から知って、この学習を差別をなくすために全員が使ってほしいと思いました。そのために、学校にポスター等を貼ったりするのも1つの方法だと考えました。

菅尾さんの話で、彼氏が「自分が～～やったらどうする」といくつか聞いても、彼女は「全然大丈夫」と答えていたのに、「自分が部落出身やったらどうする」と聞いたときだけ「私は大丈夫だけど、親がどういかわからない」みたいなことを言われたと言っていました。部落の時だけ親が出てくるのはとてもおかしいことだと思いました。

- ⑩ 菅尾さんのお話を伺って、部落差別を受けていた人は教育を授かる権利さえも奪われていたと知りました。社会で学んだように法律や決まりなどはあるけれど、平等に扱われていない人たちも今でもいると知って、法律に書かれたことを実現していくのは結局私たちであるとわかりました。

流しそうめんの準備の過程で、今まであまり話をしたことがない人とも話をすることができて良かったです。みんなで協力をして作業をするのはとても楽しかったです。

ヒューマンライツ実行委員 今後（2学期）の方向性

- (1) 比奈知文化センターで学んだことの還流報告をする。(参加者11名)
- (2) 還流報告を受けて、今後ヒューマンライツとして「学びたい」「調べたい」「みんなに伝えたい」ことを全体で確認する。
- (3) 学習資料を提供し（または自分たちで調べ）知識を深め、自分の思いや考えをしっかりとち、ヒューマンライツのメンバーでその思いを共有し、その思いを強くする。
- (4) 2学期ヒューマンタイムで全校生徒に向け発信する。

③環境

◎地域清掃活動

1 目的

- ・普段生活している地域に目を向け、その一員として、清掃活動を行い、住みやすい美しい町作りに貢献する。
- ・地域の方々との交流をはかり協力することで、より地域への関心を高める。
- ・小学生・中学生と一緒に活動することで、お互いの連携を深め、また小学生は中学生の行動を学び、中学生は下級生の世話をするにより、自主性などを育む。

2 内容

- 1) つつじが丘プラタナス並木の落ち葉拾い
- 2) 小学校周囲フェンス（正門より左側部分・南面、計130スパンほど）塗装
- 3) 春日丘幹線道路及び公園（1号、4号）内ごみ拾い

3 参加者

つつじが丘小学校	5年生	100名
南中学校	1～3年生	301名

4 日時・集合時間・集合場所

2016年11月15日（火曜日）

- ◎つつじが丘地区担当生徒・児童 14時 つつじが丘小学校
- ◎春日丘地区担当生徒・児童 14時 春日丘1号公園

	つつじが丘地区担当（生徒・児童）	春日丘地区担当（生徒・児童）
集合場所への移動方法等	【南中生徒】 13:30に南中校庭に荷物をもって集合し、その後、徒歩でつつじ小へ移動 【つつじ小児童】 移動なし	◎バスで移動 【南中生徒】 （南一番町バス停13:53発（ <u>増発バス</u> 、14:02着、春日丘2番町停留所降車） 【つつじ小児童】 （北一番町バス停13:58発（ <u>定期バス</u> 、14:02着、春日丘2番町停留所降車）

集合	14時 つつじが丘在住生徒・児童はつつじが丘小学校校庭に集合 <u>つつじが丘小体育館に荷物保管</u>	14時 春日丘在住生徒・児童は春日丘1号公園に集合 <u>集会所に荷物保管</u>
開始式	雪岡校長、自治会代表	西山校長、自治会代表
作業開始	14:15 作業開始	14:20 作業開始
作業終了	15:15 終了予定	15:15 終了予定
修了式(その後、現地解散)	雪岡校長、自治会代表	山田教頭、自治会代表

5 作業場所
別紙参照

6 人員配置

1) 落ち葉拾い

小学生(5年生)28名+中学生107名 計135名
4方向に分けて行う

2) 塗装作業

小学生(5年生)50名+中学生150名 計200名
(小学生・中学生混合の50グループ編成) →中学生は基本的に各学年から50名ずつを名簿順にて組み合わせる。

3) 春日丘ごみ拾い

小学生(5年生)23名+中学生43名 計66名
3方向に分けて行う

7 担当人員(予定)

つつじが丘小学校…5年生所属教員 6名程度
南中学校…全職員
つつじが丘自治会…30名程度
春日丘自治会…8名程度
つつじが丘小学校PTA…本部数名(生徒、児童の安全管理)
南中学校PTA…本部数名(生徒、児童の安全管理)

8 地域としてのバックアップ

1) 落ち葉拾い

南4番町、南6番町、南3番町、南7番町
北5番町、北3番町、北6番町、北7番町、北4番町(各5名程度)
理事、環境委員、民生児童委員、(オレンジ通り商店組合、コアラ)
・竹ぼうき、熊手等で落ち葉集めの支援
・ポリ袋につめ、自治会軽トラに集積後、草捨て場に搬入(理事数名)
・ポリ袋は自治会支給 約100枚

2) 塗装作業

- ・ 理事、環境委員、その他
- ・ さび落とし（サンドペーパー、ウェス）塗装指導
- ・ ペンキ、刷毛、サンドペーパーは自治会で支給

9 その他、持ち物等

ペンキ塗装チーム（4人一組）の代表は中学3年生で（ぞうきん1枚を持ってくる）

天候による実施の有無は、各学校長、各校担当代表者によって当日12:00までに決定し、中止の場合は担当者から自治会へ連絡

- ・ 軍手は各自が持参
- ・ 分別は学校側で行う
- ・ ペンキ塗装の下準備として、前日まで【11月13日（日）？】に下草を刈っておく（自治会が中心）

後日学校だよりに当日の様子を掲載し、保護者配付及び地域に回覧させていただきました。

みんなで作る クリーンキャンペーン

11月15日(火)、南中学校区クリーンキャンペーンが行われました。今回はつつじが丘小学校5年生と南中学校全生徒、つつじが丘・春日丘自治会のみなさんが参加しました。3グループに分かれて、つつじが丘小学校のフェンスのペンキ塗り、つつじが丘地内の並木の落ち葉拾い、春日丘幹線道路および公園内ゴミ拾いに取り組みました。約1時間の作業時間でしたが、道路周辺の落ち葉もすっきりときれいになり、さび付いたフェンスもきれいになりました。

今回の清掃活動を通して、

地域の方々との交流を図る

住みやすい美しい街づくりに貢献する

一緒に活動することで、お互いの連携を深める

ことで自己有用感が高まったのではないのでしょうか。自治協議会環境部会のみなさんには、計画の段階から活動内容や活動場所など相談に乗っていただき、当日のペンキや刷毛などの準備、作業場所の安全確保などサポートいただきました。ありがとうございました。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）